

令和6年度 大阪府立高津高等学校 第1回学校運営協議会 会議録

日 時： 令和6年6月17日（月）16時15分～17時10分

場 所： 本校校長室

出席者： 委員長 森田 英嗣（大阪教育大学 教授）

委 員 古門 真一（大阪府立高津高等学校 同窓会副会長）

竹村 伍郎（NPO法人 まち・すまいづくり 理事長）

山崎 晃昭（近畿大学 特任教授）

田原 裕之（大阪府立高津高等学校 PTA会長） <オンライン参加>

事務局 寺本 圭一（校長）、井上 博人（教頭）、大谷 則明（事務長）、

前川 紘紀（首席）、中原 章太（首席）、井濱 友輔（首席）、

尾崎知佐子（教諭）、東 正浩（記録係）

1. 学校長挨拶

お忙しい中お集まりいただき、授業見学等ありがとうございます。4月に着任いたしまして会議、部活、イベント等で保護者・生徒と触れ合う機会も多くあり、楽しませてもらっています。校長会会長をしていますので学校に居る時間が短く心苦しく思っています。よりよい学校運営に取り組みたいと思っておりますので良い点悪い点忌憚のない意見をお願いいたします。

教頭より協議会委員の紹介

委員長

校長との話の後、授業を6つ見せていただき、学校の様子を垣間見ることができた。今後もこういう機会があればありがたい。

2. 学校からの説明（校長より）

①令和6年度「学校経営計画」について

1（1）イ講習・補習について3年間の合格者数について説明

3（1）について、各分掌等で役割分担がしっかりできており、連携・協力を意識しなくても滞りなく実施できているので目に見えていないのではと分析している。可視化して進めていきたい。

②スクールポリシーについて

令和5年度に決定している。スクールミッションは10年を見越してのもの。グラデュエーションポリシーについては5年程度で見直しである。

③SSH 第IV期指定について

大工大との連携、生徒研究発表会等、課題研究を主とした調査・研究、外部との連携等を引き続き進めていく

④大阪教育ゆめ基金の活用について

デジタルサイネージを本年設置したい。活用玄関にモニターがあることでタイムリーに情報

共有できる。

⑤各種事業について

(1) 高津高校クリエイトラボ・セミナー

第1回5月29日(水)、第2回6月19日(水)実施している。生徒が興味関心に基づいて参加しており、感想では刺激を受けて学習を深めた、新しい知識を得た等があり、よい機会となっている。同窓会の皆さまに感謝申しあげたい。

(2) SSH 交流会支援事業

高津サイエンス・ラボは12月21日に実施予定。理科研究会から小中学校等に案内しているところ。

(3) 東アジア・太平洋地域の高校生による環境調査研究

韓国、台湾、フィリピンの学校と交流している。6月13日に150人くらいの生徒と交流した。一人一台のパソコンを使用し、大規模な交流会となっている。

(4) GULS (Global Understanding with Local Skills)

年間20回1回550円でネイティブの先生と英語を話す機会がある。英語を話すことは必須になってきている状況。

(5) その他

明日、塾と中学校の先生方に学校説明会を実施予定。生徒が参加するボランティアはキャラバン隊と呼ばれるものがある。学校説明会には自治会の生徒が案内を担当したりしている。

3. 質疑応答

委員：保護者の視点として、先生方は教科ごとに部屋も分かれているが連携をうまく行って、生徒と一緒に頑張ってくれている。子どもたちの学校生活の満足度非常に高い。各校競争も激しくなっているが、高津高校は人気あるので原動力にしてほしい。

委員：円滑な連携について、自然になっているので目に見えてそんな感じはないと仰っているのか。

校長：チームとしては「一緒にやろう」という言葉にはなっていないが、役割は共有しており支障がない。

保護者になぜ私学に行くのか聞くと、土曜日に授業があるという声が多い。やはり土曜講習についてやらないと生徒が私学に逃げる。1年生全員参加にしている土曜日の午前中はクラブも止めている。一方で働き方改革もあり、全面に押し出してやるのは難しいという意見もある。メリット、デメリットありながらであるが私としてはやる方向である。

委員：85%以上にするのには何か考えないといけない。超過時間勤務時間の5%削減については？

校長：ズレ勤務、自習室当番については朝遅く勤務等工夫をしている。

教員：中学校の先生方に勤務はどうされているのか聞かれている。

校長：普通の学校と同じことではいけない。文理学科、GLHS、SSH等の看板がいっぱいあ

るので活かしていかなければ。

委員：一般企業であれば人的資源の配分と機械化が重要。社員も設備だという考えがあるが公立教育ではどうすればよいか。

校長：ICT という点では本校は進んでいる。無線や情報共有また職員会議等データで行っている。

委員：75%は可能であっても85%はしんどい、踏み込んでくれるのはPTAさん。学校の枠をはずれたところでご協力願えたら違う切り口があるのではないかと。

校長：土曜日に自習するときにPTAの方が監督しているところもあるとのこと。

委員：先生ではなくてもできる場所はお願いすればよいのでは。先生しかできないことに専念してください。

年20回のGULSについてだが、当時山口先生と始めて評価も高いようだ。国際交流センターにて開催しているが高津高校以外の高校も始めている。国際交流センターも費用面で困っているようで、生徒からの費用は留学生に支払われるので学校に来てもらえばいいのだが。社会福祉センターの会議室も安価で借りられる。

教員：次年度施設自体工事があるようで学校で行った場合、お金の問題がクリアできるか疑問である。募集から皆、やっただきさっているので大変助かっている。

委員：私がいたときより発展されているのが素晴らしい。クリエイトラボセミナー、SSHの中学生との交流事業など。いろいろ多岐にわたって大変だけど頑張してほしい。

委員：塾や予備校なしでも大学に行けることをアピールしてほしい。3年生になるとかなり塾、予備校行っているがもったいない。先生方が講習等頑張ってください。学校主体で行けると強く言ったらどうだろうか。合格体験記で塾に行かずに合格した生徒の特集があってもよい。

教頭：進路の方でも学校中心で1年から3年までやりましょうという話はある。教員は頑張ってくれている。何とかその頑張りを理解してもらわなければならない。

委員：国公立の合格が50%、残りの50%の内訳はどうか。進学先は？

教員：国公立に合格すれば進学している。60~70人が浪人で残りは私学に進学です。

委員：大半はクリアしているが中期目標2(2)自治会活動について肯定率がクリアされていないが。

校長：「わからない」の回答が多い。何をしているかわからないので見えず肯定されていない。

委員：自治会もそのことは意識しているか。

教員：自治会も理解していて自治会新聞の発行に加えてホームページを作成したり、目安箱を作ったりしている。関係ないと思っている生徒もいるのが現状。

教頭：学校説明会で校内の案内ツアーをしてきており、活躍しているが目に触れていないところでの活躍なので有機的に結びついていない。

委員：質問のことは、自治会活動が何を指しているかわかりにくいのであろう。

校長：いじめについても自分が該当しないとやってくれるかわからないので、「わからない」という回答が多くなる。「わからない」を除くと肯定率は高くなる。

委員：会社の場合、単に頑張ろうでなく、誰にどうお願いするかが大切。PTAや素晴らしいOBもいるので密接に連携して進めて行けばよい。先生でなくてもできることは外部でするなど割り切ることが必要。

教頭：その他ございませんか。またいつでもメール等でご意見頂戴したいと思います。

校長：授業の感想、質問や貴重なご意見をありがとうございました。